

下市田区 令和6年度地元町議会議員と区民の懇談会（令和7年2月15日）

<記録1：町議から自己紹介と活動報告>

北沢幸保議員

議員になってから30回連続で一般質問を行い、町長等に行政のかじ取りを質したり提言を行ったりしてまいりました。今回は昨年の懇談会以降の一般質問を中心に報告させていただきます。

昨年3月、新上平川の治水について質問しました。MIZBEステーションから龍神大橋にかけて天竜川護岸のかさ上げ工事が行われており、完成すると天竜川護岸と新上平川の川底との標高差は5.46mとなるということです。大雨で増水した場合、天竜川の越水よりも先に新上平川への逆流や内水氾濫が発生することが懸念されています。新上平川に水位計や監視カメラの設置等を求めたわけですが、町の方からは前向きな回答はありませんでした。

次に6月議会では、子育て支援の自治体間格差を解消してほしいということで、具体的には学校給食の無償化と、子どもの医療費の受給者負担が毎回500円ずつ発生しますが、それをゼロ円にすべきだということを求めました。2月7日に町長の公開検討会があり、その場で、子どもの医療費は今年の4月からゼロ円にするという方向が示されています。

9月議会では、農業の地域計画の策定と着実な推進を求めました。今年3月までに地域計画の策定が義務付けられているのに、町民にはその目的、区域の設定方法、地域計画の推進方法が伝わっていませんでした。その後、営農支援センターゆうきが中心になって地域計画の策定に取り組み、町内15地区で地域計画の策定が進められることになりました。下市田では下市田河原と角田原の2か所で策定がされます。

12月議会では、要対策土の持ち込みは断念すべきだということで一般質問を行いました。リニアの工事では、国の基準の3倍を超えるヒ素等を含む要対策土が発生しています。町長はこの要対策土を八日市場線から田沢川までの谷に持ち込もうと計画し、地権者に説明会を行いました。しかし地権者から安全面を懸念する声が噴出し、町は断念せざるを得ませんでした。要対策土を欲しいと手挙げをしている自

治体は高森町以外にはありません。町長は要対策士を持ち込むことは未だに断念をしておられません。町には環境保全条例という条例がありますが、それに反する行為だということになります。

続いて「まちづくりを語る会」について報告します。当会は全町の70名を超える会員で構成され、事務局に参画させていただいております。去年の8月24日に議会との懇談会を開催し、11月16日には町長、担当職員を呼んで、農業、環境、教育、観光、福祉などの状況や課題について懇談しました。明日になりますが、1時半から高森町中央公民館で総会を行い、その後、福祉センター建て替えと高森温泉リニューアルについて意見交換会を行います。町民に十分な情報が示されないまま、両施設とも3月議会に予算案が提出されます。町民不在の進め方であり大問題です。関心のある方はぜひ明日ご出席いただけたらと思います。

三浦喜久夫議員

毎年12月に議会から予算提言を行っており、総務民生委員会からは2題、提言を出しました。その1つは町民の健康作り推進について。ニュースポーツに対応した備品の整備や保全拡充、教育委員会配置の地域おこし協力隊との連携を強化し、積極的に町民の健康増進に努めることを提言しました。超高齢化社会に向けて、認知症を遅らせることやフレイル予防も力を入れ、単に長寿という寿命の延伸だけではなく、健康でいられる長寿社会を目指していかなければならないと思っています。

去年は町健康福祉イベント「あいLaBo」にも参加してきました。フレイル予防の3つのテーマである栄養、運動、社会参加、これらをそれぞれが高齢化社会に向けて考える必要があるということです。

また去年は60歳以上を対象にした、信大と連携したインターバル速歩と栄養に関する研究が行われました。それに私も参加させていただき、5か月間、週4回インターバル速歩をやりながら、栄養ドリンクを飲んで、やってみた結果、血液検査はいい方向に向かっていますので、やっぱり運動ということは大事だなと感じています。健康でいられるためには、まず自分で歩ける足を作るということを自分でも実感しています。町の健康に関する行事等、皆様も積極的に参加していただき、そ

ういったことを、それぞれの皆さんで自分のものにしていただきたいと思います。

2 題目は、保育や学校現場の専門的知識を持った人材配置を提言しています。保育現場や学校現場に専属のスクールカウンセラーなど専門人材を配置することと、保育所や学校などで医療的ケア児が増えており、それを受け入れるための検討を進めることを提案しました。子どもたちの生活環境は近年めまぐるしく変化し、我々大人もこの時代の変化についていくのに本当に苦労しています。児童生徒の抱える問題は、いじめや不登校をはじめ友人関係、親子関係、学習面の課題、また発達障害など多様化しています。医療技術の進歩で医療的ケア児が増えてきているのが現状です。支援内容も多様化して、町全体で子どもを支えて切れ目のない支援をするため町も取り組んでいく中で、専門職員や指導者の数が足りないということで提言しました。来年度は社会福祉士と保育士が採用されるということです。

なり手不足については、特にいろんな現場、医療現場や看護師、介護士や社会福祉士の面でも、どこに行ってもなり手不足はあるようです。そんな中でも地域住民が支え合って生きていく地域を目指して行動に移すべきではないかと思っています。

あと個人的にもですが、防災・減災のことを頭に置いています。南海トラフ地震の30年以内に起こる確率が80%になったということです。地震はいつか来るのではなく、もう地震は必ず来るという意識を持って、その心構えでいかなければならないと思っています。今できることから準備することで減災に結びついていくということです。先日の下市田区の防災講演会で、大蔵先生のお言葉で、大地震より怖いのは、地震が来ないという自分の持つ「自信」、それが一番怖いということで、正常性バイアスを断ち切るというお話もされていました。こういったことは思いだけではなく、実際に行動に移せる、そんな自分でありたいと思っています。

小川修議員

最初は総務民生委員会に所属しました。私、スマホの電話をかけるぐらいで、本当に機械に非常に弱かったもので、とりあえず皆さんお使いになるタブレットをと

にかくマスターしなければならないと、それとパソコンを使えなければデジタル化できないということで、最初の頃はそれがもう自分のまず第1の目標で取り組んでやってまいりました。

後半の2年間は産業建設委員会に所属し、自分は農業ですので、農業ということになれば自分の経験もいくらか出せるだろうということで、先ほど北沢さんが申されましたが、今年地域計画の策定ということで、とにかく地域の農業が一体どういうふうに発展していくかということ、このことが大事だということで地域計画に取り組んで、その中で地域計画に対する提言をさせていただいております。

また、その中でも、とにかく自分たちの土地は自分たちで守っていかなければならないということで、これから何人かのグループを組んで、地域を守る組織を作らなければと、今5人ほどのグループで計画を立てて、とにかく草刈りのようなことから、あるいは何かできないというようなところがあれば、そこを中心としてやっていこうと考えています。

小沢恵子議員

私達の世代は、皆さん集まってくださいと言われても、なかなか一堂に会して集まるという時間を持つのがとっても難しい、8時、9時まで仕事をしている方もいますし、土曜日、日曜日関係なく仕事をしています。週休2日制と言われても、土曜日も半日出なければいけない、祝日は仕事だよというお母さんお父さんも本当に多いです。自分自身ではLINEを使ったり、時間をすり合わせをして会って話をしたり、そんなことで同世代の方たちのお話をよく聞く機会を、この仕事をするようになってから設けさせていただきました。

自分の中でとっても大事だと思っているのが議会だよりですが、この議会だよりを議員が作っているということ、私はこの仕事について初めて知りました。自分も以前これを読むことはあったのですが、まず何を書かれているのかよく分からないということがとても多かった。でも、この議会だよりって実はすごく大切で、議会が見える化、議会が一体何をしていたのか、どんな討論をしていたのか、この事業に対してどんな質疑が行われたのか、まず見て分かるものなんだと、この議会だ

よりというものの大切さを、定例会をやればやるほど強く感じてきました。

この3年半、議会だよりにより自分がとても深く関わるようになってきたのですが、若い子どもたち、もう18歳には選挙権があります。なのに、これ読んだことがない、議会って何か分からない、選挙って何なのかわからない、そんな子どもたちが選挙をするって果たして健全なんだろうか。よくよく考えました。その中でまず、いま自分が編集委員長を務めさせていただいてるんですが、編集にあたっては、この事業が一体どんなことをするのか、知らない子どもでも分かるように、教科書のように作ってほしい、皆さん一丸となって、分かりやすいように頑張ってお手伝いしていただくように心がけました。また議会って何かも分からないという子どもたち、中学生や若い世代の人たちにも「私の一言」というところでお声をいただき、きっかけを与えて参加してもらい、それで種をまいて、いつか自分が大人になった時に、議会って何かすごく大切なところって知ったんだと思って手に取ってもらえるようなきっかけになるように働いてまいりました。うれしいことに、中学生から「議会だより読んだよ」って声をかけてもらうこともあると思います。これは、この町がずっとずっと若い時代につながっていくということを考えると、とってもとっても大事なことだと私は思っています。